施策評価表 （平成26年度実施事業対象） （作成日：平成27年 7月 6日）

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像（政策）	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	8	名称	人と自然が共生できる地域づくり			
主担当部	生涯学習部		主担当課	昆虫館	部長名	田原 勝則	
関係部	市民文化部		関係課	産業振興課			

2. 施策の基本方針（第3次総合計画の基本方針をもとに記入する）

この施策の目的	市民が自然と触れ合うことを楽しみ、生物多様性を保全しながら生活を送ることができるまちを目指します。そのために、NPO・ボランティア団体等と連携し、里山環境や水辺環境等の保全及び活用を進め、自然・環境、生物多様性に関する情報を提供し、社会教育の機会として、展示、講座、観察教室等のイベントを行う。

3. 施策の現状分析（第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する）

	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
この施策の概況	子どもたちを中心とした地域住民が安心・安全に身近で自然に触れあうことができる環境づくりが求められています。そのため、里山・里地を整備し、飛鳥川など水辺環境の保全、昆虫や野生生物などの生態系について学べる機会を充実する取り組みをボランティア団体等と協働で進める。	地球温暖化や環境破壊等により自然環境が大きく変化し、ライフスタイルも多様化していくなかで自然環境も減少し、子どもたちも自然から離れていく傾向にあります。多様な生き物が生息している里地・里山を保全・活用すると同時に教育普及の促進が必要。
これまでの成果	昆虫館周辺の里地・里山の整備、及び昆虫や植物等の生物相調査をボランティアとの協力により継続的に行っている。飛鳥川等の河川では、地元小・中学校の生徒や関係課の依頼等により環境調査及び観察教室を行っている。	

4. 指標及びコストの推移

		名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度（総計目標年度）	備考欄
			実績	目標	実績	目標	目標	目標	
指標の推移	施策指標①（成果指標）	観察会や観察教室、イベント等の開催回数（回）	53	35	46	35	35	35	
	施策指標②（成果指標）	出前講座の回数（回）	34	26	41	26	26	26	
	施策指標③（成果指標）	昆虫館の利用者（人）	76,310	72,000	69,832	73,000	74,000	75,000	
	施策指標④（成果指標）								
	施策指標⑤（成果指標）								

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出（直接事業費）（a）		6,519	10,142	9,926	43,388	
	歳入（b）	受益者負担額	39	32	1,014	1,014	
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	1,926	144	144	4,625	
	（a）－（b）＝一般財源		4,554	9,966	8,768	37,749	
	正職員	従事者数（単位：人）	5.30	5.30	5.55	5.55	
		人件費（c）	32,712	34,450	36,075	36,075	
	トータルコスト（a）＋（c）		39,231	44,592	46,001	79,463	

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	昆虫館周辺の里地・里山においてボランティア団体と協働で継続的に整備活動を行い、調査や観察会においても活用できている。地元の小・中学生との水辺の生き物調査や出前講座等を通じ地域との連携が図れ、周辺環境や保全が進み自然体験や散策等に活用できるようになり、人と自然が共生できる地域づくりに向けての取り組みは進んでいる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	自然や環境、生物多様性を保全し、様々な生物が暮らせる環境づくりが進められている中で、昆虫や野生生物等に関する特別展企画展等の展示や生物調査、観察会等を実施することで、自然環境の情報発信、地域生涯学習を行う拠点としての貢献度は高い。				

6. 施策の課題

この施策の課題	大和三山、飛鳥川、藤原宮跡等は、多様な生き物が生息している自然豊かな環境ですが、生物調査が十分に行われていないところもあり、ボランティア団体や中学・高校の科学部の生徒と協働で進め、多様性の高い自然環境を保全するしくみづくりが必要です。

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	里地・里山は整備・管理を続けていかなければ生態系を良い状態に維持できないため、ボランティア団体と協働で継続していく。また、地元小・中学生や学校との連携を図り、水辺や里山の生き物調査を実施し、自然環境情報の集積・発信の拠点としての機能を充実させ生物多様性を保全しながら、人と自然が共生できる地域づくりを図っていく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性 （それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	人と自然が共生できる地域づくりを進めていくには、地域の自然についての調査と資料収集、標本類等の資料等管理事業や、昆虫類の飼育展示業務を行う基礎的な調査研究業務が必要である。その成果を企画展や来館者、学校での出前授業等の教育普及事業で還元することで、多角的に生物多様性の重要性について啓発しながら市民の意識を高めていくことができる。自然環境の情報集積・発信拠点としての機能を充実させるため、各事務事業を効果的に展開し、見直しながら調整を行い継続していく。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説
・貢献度ー事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度（重要度）を絶対評価で示しています。
（a：不可欠かつ施策の中核をなす事業、b：不可欠な事業、c：不可欠ではないが実施が望ましい事業、d：あまり有効ではない事業）
・方向性ー事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
（拡大する、見直しながら続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する）
・優先度（ソフト事業（任意）のみ）ー施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
（優先度が高い順に　A、B、C、D）

この施策に関連する事務事業評価の内容（評価内容の転記）					施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH26決算額		貢献度	方向性	優先度（ソフト任意）
1	産業振興課 里山林機能回復整備事業 （　ソフト（任意）　）	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体とを森林バンクに登録する事務を行い、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。	2	現状のまま継続 115 （千円）	c	見直しながら続ける	C
2	昆虫館 資料等管理事業 （内部管理・維持管理）	博物館業務のひとつとして、生態系の理解や保全のための生物調査を行い採集した動植物の資料収集・収蔵業務が重要である。貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を行う。	2	現状のまま継続 643 （千円）	b	見直しながら続ける	
3	昆虫館 生態系及び動植物の分布調査と研究事業 （内部管理・維持管理）	市内の大和三山やため池、用水路等の動植物が生息しているフィールドを市民やボランティア団体、小学校等と連携しながら自然環境や生態系の保全、緑の基本計画、農地の多面的機能に配慮し生物調査を行う。調査等のデータを蓄積し、展示を行うことで生態系の理解や保全、自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行う。また、万葉集で謳われている植物を考慮した整備を協働で進める。	2	現状のまま継続 4,336 （千円）	a	見直しながら続ける	
4	昆虫館 生態飼育業務 （内部管理・維持管理）	生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫に適した環境をつくり餌も工夫するなどして与え、飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、飼育方法を確立させる。	2	現状のまま継続 2,857 （千円）	b	見直しながら続ける	
5	昆虫館 環境教育普及事業 （　ソフト（任意）　）	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会やゼミナール等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっぱいの里山を目指しボランティアグループと協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。	2	現状のまま継続 1,975 （千円）	a	見直しながら続ける	B

事務事業評価表（平成26年度実施事業対象）

（作成日：平成27年 5月28日）

事業の種類を選択してください。⇒ （ ソフト（任意） ） 事業

PLAN 計画

事務事業名	里山林機能回復整備事業					
担当部名	市民文化部	担当課名	産業振興課	課長名	中川 明彦	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施 策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
予算事業名	農業振興事業費					
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	里山林整備団体	事業の内容説明	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体とを森林バンクに登録する事務を行い、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。
事業の目的	住民の自主的な参加により、里山林の保全・整備及び活用の促進を図る。		

妥当性評価

市の関与の必要性を評価してください

なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業	
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）	
	説明	県費補助事業であり、補助事業者は市町村である必要がある。	
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい / 3 克服できる範囲内 / 4 ほとんど無い
	説明	整備活動を行うボランティア団体へ補助ができない。	

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度（総計目標）
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	機能回復面積（ha）	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
活動指標①	里山林整備団体	1	1	1	2	2	2
活動指標②							

コストの推移（単位：千円）

財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
歳出（直接事業費）（a）		115	118	115	4,449
歳入（b）	受益者負担額				
	受益者負担額以外の歳入（補助金等）	144	144	144	4,625
（a） － （b） ＝ 一般財源		−29	−26	−29	−176
正職員	従事者数（単位：人）	0.15	0.15	0.05	0.05
	人件費（c）	926	975	325	325
トータルコスト（a）＋（c）		1,041	1,093	440	4,774
単位当たりコスト	計算式等 （ ）／（ ）				

備考（これまでの実績等）	

<table>
<tr><td rowspan="6">CHECK
評価</td><td rowspan="4">有効性評価
現時点での有効性を評価してください</td><td rowspan="2">現時点での成果について</td><td>3</td><td>1 十分な成果が出ている</td><td>2 概ね十分な成果が出ている</td><td>3 現時点では十分な成果が出ていない</td><td>4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">整備活動は必要であるが、活動範囲が限られている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">上位施策への貢献度はどうか</td><td>2</td><td>1 高い</td><td>2 やや高い</td><td>3 やや低い</td><td>4 低い</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">自然との共生を図る上では必要である。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">効率性評価
内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください</td><td>1</td><td>1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない</td><td>2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある</td><td>3 効率性が低く、改善が必要</td><td>4 効率性が低いが、改善が見込めない</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">人件費を除き100%県費補助対象であるため、コスト削減の余地はない。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ACTION
修正行動</td><td colspan="2">この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。</td><td colspan="6">県、整備団体との連携をさらに密に行い、今後も継続していく。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください</td><td rowspan="2">2</td><td>1 拡大する</td><td>2 現状のまま継続</td><td>3 縮小する</td><td rowspan="2">課内優先度</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>4 廃止又は休止する</td><td>5 完了する</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">説明</td><td colspan="6">自然環境を保全するため、里山林の適正な整備・育成により、機能回復を図る。</td></tr>
</table>

事務事業評価表（平成26年度実施事業対象）

（作成日：平成27年　5月28日）

事業の種類を選択してください。⇒　（　内部管理・維持管理　）　事業

PLAN 計画

事務事業名	資料等管理事業					
担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村　史明	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
予算事業名	昆虫館管理運営費					
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	昆虫館入館者、昆虫館職員	事業の内容説明	博物館業務のひとつとして、生態系の理解や保全のための生物調査を行い採集した動植物の資料収集・収蔵業務が重要である。貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を行う。
事業の目的	昆虫資料・標本の収集と収蔵保管の充実を図り、収蔵標本の情報発信を行う。		

妥当性評価 市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）
		説明	
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい　2 やや大きい　3 克服できる範囲内　4 ほとんど無い
		説明	

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度（総計目標）
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標							
活動指標①	収蔵書籍数（冊）	101,300	101,350	101,500	101,700	101,900	102,100
活動指標②	標本数（匹）	30,150	30,200	48,200	48,300	48,400	48,500

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出（直接事業費）（a）		2,210	474	643	474
	歳入（b）	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）				
	（a）－（b）＝一般財源		2,210	474	643	474
	正職員	従事者数（単位：人）	0.65	0.65	0.80	0.80
		人件費（c）	4,012	4,225	5,200	5,200
	トータルコスト（a）＋（c）		6,222	4,699	5,843	5,674
	単位当たりコスト	計算式等 （（トータルコスト）／（活動指標②））	0.206	0.155	0.212	0.117

備考（これまでの実績等）	

CHECK 評価	有効性評価 現時点での有効性を評価してください	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
			説明	市が関与していることで一般市民より貴重な標本資料の提供があり、寄贈された貴重な標本などは特別展や企画展等に展示し、博物館の責務とし公開している。自然や生き物についての啓発・情報提供している。			
		上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	今では手に入りにくい標本の展示や地域特有の標本等を展示することで、自然環境の変動や生物の多様性に関することについて学ぶことができ、人と自然が共生できるまちづくりについて理解が高まる。			
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない
			説明	標本を管理している設備等にかかるコストと人件費のため、低減の余地がない。			
ACTION 修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		収納スペースが確保され、標本の整理や書籍の収蔵のためのスペースが広くなったが、橿原市内の動植物の資料が少ないことから定期的に調査・研究を行い収集を行う。また、昆虫館情報システムにデータとして入力し、有効活用することで、地域の自然環境の変化などについて学ぶことができる。				
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
				4 廃止又は休止する	5 完了する		
			説明	標本資料は1点1点が情報の源であり、博物館施設の肝である。リニューアルに伴い収蔵スペースには余裕があるが、標本の整理が遅れている。人員の増員が難しい中、現行の体制で少しずつ整理を進めていく。さらに学校への貸出しや出前授業にも有効に活用していく。			

事務事業評価表（平成26年度実施事業対象）

（作成日：平成27年　5月28日）

事業の種類を選択してください。⇒　（　内部管理・維持管理　）　事業

PLAN 計画

事務事業名	生態系及び動植物の分布調査と研究事業					
担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村　史明	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
予算事業名	昆虫館管理運営費					
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	昆虫館職員、地域住民、ボランティア、小学校	事業の内容説明	市内の大和三山やため池、用水路等の動植物が生息しているフィールドを市民やボランティア団体、小学校等と連携しながら自然環境や生態系の保全、緑の基本計画、農地の多面的機能に配慮し生物調査を行う。調査等のデータを蓄積し、展示を行うことで生態系の理解や保全、自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行う。また、万葉集で謳われている植物を考慮した整備を協働で進める。
事業の目的	職員や地域住民、ボランティア団体、小学校が協働し、昆虫をはじめとする動物や植物の生態や分布調査及び採集を行い、調査結果等を特別展や企画展、常設展示に反映し、市民（入館者）に還元する。また、動植物の生態や分布や採集した昆虫類の飼育、植物の栽培をとおして技術の向上に努める。		

妥当性評価

市の関与の必要性を評価してください

なぜ市が関与しているのか		1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）
	説明	
やめた場合の影響は		1 非常に大きい　2 やや大きい　3 克服できる範囲内　4 ほとんど無い
	説明	

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度（総計目標）
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標							
活動指標①	研修会の参加回数（回）	10	9	10	9	9	9
活動指標②	調査回数（回）	11	6	14	6	6	6

コストの推移（単位：千円）			25年度	26年度		27年度	28年度	29年度
	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出（直接事業費）（a）		2,341	4,399	4,336	7,848		
	歳入（b）	受益者負担額						
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	1,700					
	（a）－（b）＝一般財源		641	4,399	4,336	7,848		
	正職員	従事者数（単位：人）	1.50	1.50	2.10	2.10		
		人件費（c）	9,258	9,750	13,650	13,650		
	トータルコスト（a）＋（c）		11,599	14,149	17,986	21,498		
	単位当たりコスト	計算式等 （トータルコスト）／（研修会の参加回数）	1,160	1,572	1,799	2,389		

備考（これまでの実績等）	

CHECK 評価	有効性評価 現時点での有効性を評価してください	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
			説明	ボランティアグループと協力しながら昆虫館周辺の雑木林を整備を行い、観察会や調査を実施するとともに、情報発信や啓発を行っている。地元の学校や地域と連携し河川等の調査も実施した。			
		上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	飛鳥川流域等の調査を行い、水辺環境に取組む各種団体と学校等と連携し、飛鳥川を中心とした水に親しむ川づくりを協働で進めており貢献度は高い。			
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない
			説明	各種団体や学校等で連携して調査や研究等を協働で行っていることで、調査が効率よく進められる。コスト等については、多くの団体に連携を求めることでコスト低減を図る余地はある。			
ACTION 修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		大和三山や市内に点在する鎮守の森、飛鳥川をはじめとする河川、ため池、用水路を含む農地にも多くの生き物が生息していることから地域住民、ボランティア団体、小学校と連携し、生物調査を行うことにより、広範囲でデータが得られる。また、自然環境や生物多様性について、保全や活用を推進していくことにより住民の関心が広がる。				
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
				4 廃止又は休止する	5 完了する		
			説明	市内の動植物が生息しているフィールド調査など、予算軽減を考慮するために地域住民、ボランティア団体、小学校と連携しながら生物調査を行う。			

事務事業評価表（平成26年度実施事業対象）

（作成日：平成27年　5月28日）

事業の種類を選択してください。⇒　（　内部管理・維持管理　）　事業

PLAN 計画

事務事業名	生態飼育業務					
担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村　史明	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
予算事業名	昆虫館管理運営費					
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	昆虫館入館者、昆虫館職員	事業の内容説明	生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫に適した環境をつくり餌も工夫するなどして与え、飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、飼育方法を確立させる。
事業の目的	累代飼育を中心に生態（昆虫の生活している状況）を人工的につくり維持して飼育する。		

妥当性評価 市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか		1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）
		説明	
	やめた場合の影響は		1 非常に大きい　2 やや大きい　3 克服できる範囲内　4 ほとんど無い
		説明	

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度（総計目標）
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標							
活動指標①	飼育・展示種類数（種）	90	93	114	95	95	95
活動指標②	年間放蝶数（匹）	12,871	14,650	10,444	11,000	11,000	11,000

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出（直接事業費）（a）		1,643	3,031	2,857	28,919
	歳入（b）	受益者負担額			982	982
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）				
	（a）－（b）＝一般財源		1,643	3,031	1,875	27,937
	正職員	従事者数（単位：人）	1.10	1.10	1.10	1.10
		人件費（c）	6,789	7,150	7,150	7,150
	トータルコスト（a）＋（c）		8,432	10,181	10,007	36,069
	単位当たりコスト	計算式等 （トータルコスト）／（活動指標①）	94	109	88	380

備考（これまでの実績等）	

CHECK 評価	有効性評価 現時点での有効性を評価してください	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
			説明	飼育は種の数など安定しており、定期的に昆虫の展示替えを行うことができた。昆虫に直接ふれあえる展示も実施することにより、入館者の満足度が高く、概ね十分な成果が出ている。			
		上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	いろいろな昆虫の種類を飼育・展示することで生物多様性や生息環境について学習することができまた、昆虫館の周辺をボランティアが中心となり整備・管理し、フィールドミュージアムに向けて進め、人と自然が共生できる地域づくりを図ることで、貢献度はより高い。			
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない
			説明	展示効果を向上させ生態展示を拡大し、施策の貢献度を高めるには、より多くの生きた昆虫（種類）などが必要である。また、非常勤職員と他館へ積極的に交流を行い、マニュアル化を図ることで飼育技術が向上し、人件費の低減に繋がる。			
ACTION 修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		累代飼育による生態展示を続けているが、累代飼育を続けると近親交配によって病気の発生が多くなるなど累代による弊害が出てくる。何度も現地で採集することも困難である。採集困難な昆虫は購入あるいは、無償提供を受けている。また、最近は外国産の昆虫（カブトムシやクワガタ）を飼育している人からの提供も多く、他の施設にも協力を求めることにより、飼育困難な場合の受け入れの連絡態勢を工夫することで、安定した生態展示が期待できる。				
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
				4 廃止又は休止する	5 完了する		
			説明	情報コーナーやイベントを活用して、生きた昆虫と触れ合える機会を増やす。また、生態展示の昆虫を維持するためには、飼育体制や飼育内容の充実を図る。			

事務事業評価表（平成26年度実施事業対象）

（作成日：平成27年 5月28日）

事業の種類を選択してください。⇒ （ ソフト（任意） ） 事業

PLAN 計画

事務事業名	環境教育普及事業					
担当部名	生涯学習部	担当課名	昆虫館	課長名	木村　史明	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
予算事業名	昆虫館管理運営費					
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	市民、ボランティア、小学校	事業の内容説明	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会やゼミナール等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっぱいの里山を目指しボランティアグループと協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。
事業の目的	自然環境が減少していく中で、子どもたちが自然から離れていく傾向にあります。そのため里山や水辺等の環境保全と活用を進め、命や自然の大切さを感じたり学べる拠点としてイベント等を実施し、環境教育の普及や学習機会の充実を図る。		

妥当性評価

市の関与の必要性を評価してください

なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）
	説明	自然が減少していく中で、博物館が昆虫を中心として取り組む自然環境教育に対しての期待は大きく、命や自然の大切さを感じたり学べる拠点として行っていく上で、社会的役割としての責務がある。市が関与することにより、学校現場との連携がとりやすく学べる拠点としての効果も大きい。
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい　2 やや大きい　3 克服できる範囲内　4 ほとんど無い
	説明	小学校との連携が困難となり、理科離れや自然環境に対し無関心が拡大し、貴重な学習の場が失われる。

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度（総計目標）
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	講座受講者数（人）	1,820	1,500	1,863	1,600	1,800	1,800
活動指標①	観察講座開催回数（回）	34	26	37	26	26	26
活動指標②	特別展・企画展入館者数（人）	67,497	67,500	63,192	64,000	64,000	64,000

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出（直接事業費）（a）		210	2,120	1,975	1,698
	歳入（b）	受益者負担額	39	32	32	32
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	82			
	（a）－（b）＝一般財源		89	2,088	1,943	1,666
	正職員	従事者数（単位：人）	1.90	1.90	1.50	1.50
		人件費（c）	11,727	12,350	9,750	9,750
	トータルコスト（a）＋（c）		11,937	14,470	11,725	11,448
	単位当たりコスト	計算式等 （トータルコスト）／（活動指標①）	351	557	317	440

備考（これまでの実績等）	市内の小学校へ出前授業を実施し、学校現場との交流と教育普及を行った。

CHECK 評価	有効性評価 現時点での有効性を評価してください	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
			説明	環境教育（観察会等）を通じた市民との交流やモンシロチョウの飼育教材を配布し、出前講座も行い、学校現場との交流も積極的に行っている。			
		上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	ボランティア活動により昆虫館周辺の里山が整備された自然空間を観察会などで利用し、生涯学習の場として提供することで地域との交流や自然との共生を学べる生涯学習の充実を図る。			
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない
			説明	コストの大半は人件費である。イベントにはボランティアから参加を募り協力をしていただき、昆虫館職員数を最小限人員で対応し、コストを低減しながら対応している。			
ACTION 修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		観察会やイベント等の企画運営については、限られた人員で通常業務に加えて運営しているためイベント開催時になると職員のみでの対応に限界がある。職員の人員配置を考えつつ、ボランティアの方に参加していただきながらイベントの効果が最大限発揮できるようにする。橿原市内の小学校の出前授業には、モンシロチョウの飼育キットの使用や学校のニーズに合った授業を行うことで、教育普及に貢献でき同時に周辺の生き物調査も行える。				
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度 B
				4 廃止又は休止する	5 完了する		
			説明	市民参加によるイベントの企画を計画し、学校との連携を続けていく。職員の派遣人員を考慮し、昆虫館からの企画だけでなく、ボランティアからの参加を募ることで人件費のコスト軽減を行い、ボランティア活動からの提案も盛り込みながら、体験型事業も企画し参加者の増加を図る。			